



いきいき

小富士っ子



R5学校便り No.8

令和5.6.20

四国中央市立
小富士小学校

梅雨期の健康・安全

今年は、5月29日に「四国地方が梅雨入りしたとみられる」と気象庁から発表がありました。まだそれほど雨は降っていませんが、とうとう雨の多い、じめじめした日の続く季節がやってきたと、気持ちも少し湿っぽくなっています。しかし、おかげでダムの貯水率は100パーセントです。それでも、やはり雨は苦手です。梅雨期は気圧が下がり、寒暖差も大きく、湿度が高いのが特徴です。そのせいで、疲れがたまりやすいとか、頭痛など体調不良になりやすい、食品が傷みやすく食中毒が出やすいなどと言われており、**健康管理に気を遣います**。また、けがや事故、交通安全にも気を付けなければなりません。雨で視界が悪くなったり、路面が濡れて滑りやすくなったりすることで、毎年梅雨の時期には**交通事故が増える傾向**にあります。今後一層、交通安全に努めたいものです。今年も愛媛県警は交通安全運動の重点の一つとして「**横断歩道止まろうキャンペーン**」を行っています。横断歩道での歩行者と自動車の接触等が後を絶たない状況を受けて、このキャンペーンが行われています。私は信号機のない横断歩道でちゃんと止まるように努めています。横断歩道は歩行者優先ですから、歩行者にしてみれば自動車が止まるのが当たり前ですが、必ずと言っていいほど歩行者は、止まった私に頭を下げてくれます。とても気持ちが良いので、こちらでも思わず頭を下げたり、にっこり微笑んだりしています。しかし、例えば「信号機のない横断歩道で止まりたいけれど、歩行者が横断歩道を渡るのか分からないので止まりづらい」「自分が止まっても、反対車線の自動車が止まらないう歩行者がかえって危険だから止まるのをためらう」などの声もよく耳にします。私は、自分が止まった後、対向車のドライバーに「止まってね」の合図を送ります。対向車はみんな止まってくれます。先日、横断歩道で止まっている反対車線の自動車がハザードランプをチカチカさせていました。なるほど、この方法もよいなと思いました。歩行者へは、「どうぞ、渡ってください」の合図を送ります。歩行者は安心して渡ってくれます。自分の意思や行動を相手にしっかり伝えることは物事を円滑に進める上で大切です。交通安全教室で、1年生は横断歩道でしっかり手を上げる練習をしました。子どもたちは自分の意思をしっかりとドライバーに伝えて交通安全を守っています。今「**大人も手を上げよう運動**」が推進されています。私たちも横断歩道では手を上げて、児童のモデルになりたいですね。今日は、本日が**交通安全の日**です。



江戸しぐさ



今朝、保健委員さんが各学級を訪問して「雨の日の過ごし方」をお知らせしていました。お知らせの中であった「傘の使い方」の話聞いて思い出した話があります。それは、江戸時代には「傘かしげ」と言われる傘に関するマナーがあったということです。「傘かしげ」とは、雨の日に道ですれ違う際、お互いに傘を外側に傾け、相手が濡れないようにするしぐさのことです。相手に思いやりを持った振る舞いは素敵ですね。このような江戸時代の日常生活のマナーを「江戸しぐさ」と言い、他には「肩引き」とか「七三の道」「こぶし腰浮かせ」などがあります。(ぜひ、調べてみてください。)

「江戸しぐさ」の中には、もうすでに実践しているマナーもあるかと思いますが、みんなが気持ち良く生活するために、「江戸しぐさ」に学びたいものですね。傘の使い方にも気を付けたいですね。